

男女共同参画事業

発生医学研究所では、男女共同参画を推進するため、全学の男女共同参画への取組みに加え、発生医学研究所独自の「発生医学研究所における男女共同参画推進事業」を行っている。本事業では、全学の男女共同参画事業の各種支援制度では支援を受けられないケース(たとえば、育児または介護をしている大学院生の研究支援など)についても積極的に支援し、両性がともに、研究と育児・介護を両立させながら、その能力を十分に発揮できる研究環境を整備している。

(1) 研究支援事業

1-1. 事業の目的

発生医学研究所において研究に従事する女性比率は、キャリアアップに従って減少する。その原因のひとつとして、育児・介護などの要因により女性研究者が育成される十分な環境がないことが挙げられる。女性に限らず、両性がともに、研究と育児・介護を両立させながらその能力を十分に発揮できる研究環境を整備することは、当研究所における研究推進にとって重要と考える。理系の研究者人口が減少傾向にある中で人材の育成と活用を行うには、男女共同参画を念頭においた予算措置を伴う組織的な取り組みが不可欠である。

次の事業を実施することにより、男女共同参画が推進されるだけでなく、構成員全体に意識改革が及ぶ効果を期待している。

1-2. 事業内容

事業1. 育児・介護休業取得の促進に資する経費支援 (対象:全職員)

申し出により育児・介護休業が取得できる職員(常勤または非常勤の研究者ならびに技術的・事務的研究支援者で、男女を問わない)において、諸事情により、必ずしも休業の申し出ができない可能性が考えられる。積極的是正策として、育児・介護休業を申し出て認められた職員が従事する分野あてに、支援経費を配分する。(独立行政法人日本学術振興会特別研究員等、本学と雇用関係がない者が所属する分野についても申請可とする)

事業2. 産後・育児・介護休業取得者の復帰後研究支援 (対象:研究者)

産後・育児・介護休業を取得した研究者(常勤または非常勤の研究者で、男女を問わない)の復帰後の速やかな研究再開の支援のため、支援経費を配分する。ただし、産後・育児休業に関しては出産後1年未満の者を、介護休業に関しては復帰後1年未満の者を対象とする。(独立行政法人日本学術振興会特別研究員等、本学と雇用関係がない者も申請可とする)

事業3. 育児・介護期間中の研究支援 (対象:大学院生および研究者)

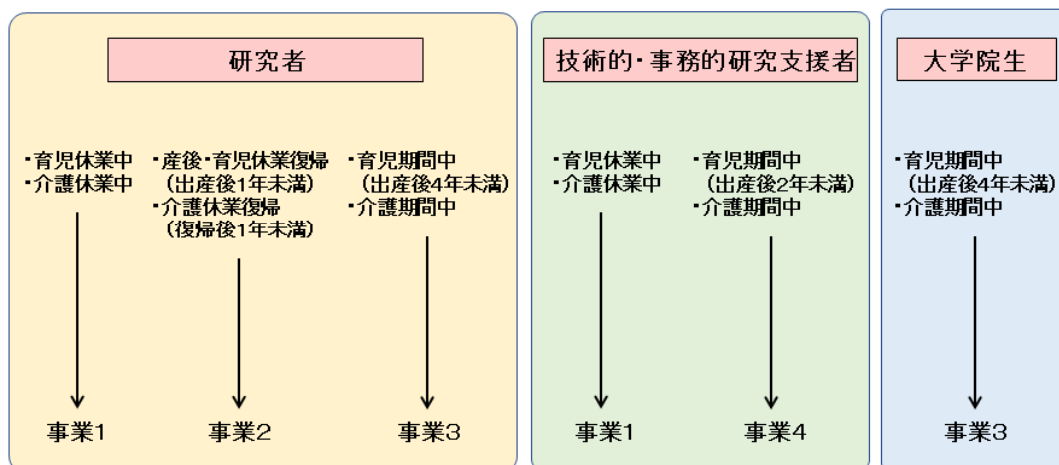
育児・介護期間中の本学大学院生(男女を問わない)、および研究者(常勤または非常勤の研究者で、男女を問わない)については、育児または介護において、50%より多くの役割を担っている場合、研究支援のため、支援経費を配分する。また、年度ごとに申請可とする。(独立行政法人日本学術振興会特別研究員等、本学と雇用関係がない者も申請可とする)

ただし、育児期間に関しては、出産後4年未満の者を対象とする。

事業4. 休業復帰後および育児・介護期間中の経費支援(対象:技術的・事務的研究支援者)

産後・育児・介護休業を取得した職員(技術的・事務的研究支援者で、男女を問わない)、および育児・介護期間中の職員(技術的・事務的研究支援者で、男女を問わない)が所属する分野においては、育児または介護において50%より多くの役割を担っている場合、当該分野に支援経費を配分する。年度ごとに申請可とする。ただし、育児期間に関しては、出産後2年未満の者を対象とする。

〈事業対象者および公募区分〉



1-3. 研究支援状況(2013年 - 2017年)

【H25(2013)年度～H28(2016)年度】※旧事業区分

事業名/年度	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	採択件数・金額 総計(千円) (事業毎)
事業1【育児・介護休業取得の促進に資する経費支援】					
応募件数	0	0	0	0	0
採択件数	0	0	0	0	0
採択金額(千円)	0	0	0	0	0
事業2【育児・介護休業取得者の復帰後研究支援】					
応募件数	0	1	1	0	2
採択件数	0	1	1	0	2
採択金額(千円)	0	300	500	0	800
事業3【育児・介護期間中の研究支援】					
応募件数	1	0	0	1	2
採択件数	1	0	0	1	2
採択金額(千円)	700	0	0	1,000	1,700
採択件数総計(年度毎)	1	1	1	1	4
採択金額総計(千円)(年度)	700	300	500	1,000	2500

【H29(2017)年度】 ※新事業区分

事業名/年度	H29(2017) 前期	H29(2017) 後期	採択件数・金額 総計(千円) (事業毎)
事業1【事業1. 育児・介護休業取得の促進に資する経費支援 (対象：全職員)】			
応募件数	1	1	2
採択件数	1	1	2
採択金額(千円)	250	250	500
事業2【事業2. 産後・育児・介護休業取得者の復帰後研究支援 (対象：研究者)】			
応募件数	2	2	4
採択件数	2	2	4
採択金額(千円)	500	500	1000
事業3. 育児・介護期間中の研究支援 (対象：大学院生および研究者)			
応募件数	1	1	2
採択件数	1	1	2
採択金額(千円)	250	250	500
事業4. 休業復帰後および育児・介護期間中の経費支援 (対象：技術的・事務的研究支援者)			
応募件数	0	0	0
採択件数	0	0	0
採択金額(千円)	0	0	0
採択件数総計(年度毎)	4	4	8
採択金額総計(千円)(年度)	1,000	1,000	2,000

(2) その他の取組み

2-1. 保育支援

発生医学研究所主催の研究会等では、多くの職員が参加可能となるように、保育支援事業を行っている。研究所内の女性教職員からは、研究と家庭・子育ての無理のない両立に非常に役立つとの意見が寄せられている。

【実施例】 発生医学研究所&国際先端研究拠点主催「サマーリトリート」(2017.08.03-04, ホテルグリーンピア南阿蘇)

- ・認可保育園に常勤の保育士資格者 2 名による託児(2 日間)
(0~2 歳児 2 名、3~7 歳児 3 名)

2-2. キャリアパス座談会の開催

活躍中の女性研究者を招聘し、最先端研究とキャリアアップについてのジョイントセミナーなどを開催している。男女を問わず、研究者や研究職を目指す学生が参加し、悩み事の相談や情報交換も行っている。

- ・平成 28 年 11 月 10 日 (木)
十川 久美子 先生 (東京工業大学 生命理工学院 准教授 (H28 当時))
- ・平成 29 年 8 月 30 日 (水)
岡田 由紀 先生 (東京大学 分子細胞生物学研究所 准教授 (H29 当時))

2-3. 授乳室の設置

発生医学研究所では、子育て中の研究者の増加に配慮して、所内に授乳室を設置した。授乳やオムツ交換に活用できるよう、安全面や衛生面も配慮した設備を整えている。

【設備一覧】 ※2018年3月現在

- ・大型ソファークラッド(母子が横になって寝ることが可能です) 2台
- ・パーティション(授乳スペースのプライバシー保護のため)
- ・小型冷蔵冷凍庫
- ・浄水カートリッジ付き水道
- ・その他備品 (ソファ 2脚、テーブル 1台、長椅子 1脚、毛布 2種)

2-4. 相談窓口の設置

男女共同参画に関する苦情申し立て、意見、提案などを随時受け付けるために、発生医学研究所ホームページ「男女共同参画事業」に相談窓口の教員を掲載している。男女を問わず相談を受けられるように男性2名、女性2名を配置している。

2-5. 女性教職員の採用促進

女性が働き続けられる環境作りを実現するために、発生医学研究所では女性教職員の採用促進を目指しています。業績評価などの際には、女性研究者の採用を促進する体制である旨を応募者と評価者の両者に分かるよう、文言を評価項目一覧に入れている。

【発生医学研究所教職員数・女性教職員数比率】

職名(人)/年度	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
教授	9	9	8	8	8
うち女性数	1	1	0	0	0
准教授	2	2	2	3	4
うち女性数	1	1	1	1	0
講師	1	1	1	1	1
うち女性数	0	0	0	0	0
助教	9	10	8	7	9
うち女性数	2	2	2	1	3
技術職員	9	10	10	9	10
うち女性数	2	2	2	1	2
非常勤研究員	4	14	10	10	5
うち女性数	4	4	1	5	3
非常勤技術支援者	26	19	18	23	16
うち女性数	25	19	18	21	16
事務補佐員	1	2	3	3	3
うち女性数	1	2	3	3	3
女性教職員比率	59%	46%	45%	50%	48%